

旧海保村旗本 500 石岡村丹後守組名主
姉崎・井口家文書

- ①安政 2 年、大地震知行所住居大破にともなう夫
金御用下知書
- ②嘉永 5 年、知行所御林伐払請負上納金 50 両請取
原文および解読

参考資料＝旗本岡村家「市原の大名旗本家事典」

令和 5 年 7 月

八幡史学館

下紙書

一 高升十月百長富新大地震

脚地即部出往長回正氣地

向未踏來一彼在故與有字地每

三如公富事中之則也

國府西邊地也

據中一處有地備天

拉拉文村高

望地披沙及高者有全

割會以文在田云

村官小系同

當于百中向

高格年之

係之平米吹

廿二年十月

所地既新

水崎慶三郎

梅野村
梅野申

覽

一 合

在口和所也

松本寺口

係在

通上

所地願新

松園榮三郎

水崎慶三郎

廿二年十月

卷

下紙書

一高升十月百長富新大地書

所地即前出往來回西去氣地書

向東進東入被東出有早之盤

三亦如云富年中之則也如

國府西之層也也也也也也

格文一候可地地地地地地

拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉

要在披皮高者有人之

制念以美念用云信也

村富小亦同云云云云

當二月十也也也也也也

主程年之也也也也也也

係之平來吹地

所地

水師慶

嘉慶二年十月

梅樹村

覽

一合

石口

松

傳

通

所地

松園

水

卷

岡村

- 1 直行 2 直純 3 直昌 4 直賢 5 直恒 6 某
300俵
貞時 200俵。明治維新へ
直道 紀伊家家臣

旗本岡村備後守家(寛政譜20-219、旗本家百科事典1145)

文政2年~嘉永4年 ⑤岡村直恒 旗本500石。虎之進、丹後守、備後守、小納戸、小姓頭取、小十人頭、先鉄砲頭、新番頭、小普請支配、道中奉行、清水家老、四郎、弥右衛門、隠岐守、丹後守、小姓組、小納戸、膳番、小納戸頭取、槍奉行

岡村備後守家所領

文政2年~慶応4-7 海保村(五井地区) 900石のうち284石 1相給の一部

恒武平氏。三浦氏の後裔で直成が紀伊家につかえて外戚の岡村にかえた。直純のとき8代将軍吉宗に付随して300俵が与えられ、4代直賢の文化3年小納戸頭取で500石に加増、のちに三卿清水家家老、旗奉行にすんだ。市原の岡村領海保村は文政2年直恒から。直恒は大目付鉄砲改め、道中奉行、清水家家老を歴任、最後の丹後守某も13代将軍家定小納戸ご膳番、14代将軍家茂小納戸頭取格、槍奉行をつとめた。

参考資料

所領変遷/①寛政重修諸家譜、②旗本家百科事典

①享保元-6 新知 300俵 直純 りん米

②文化3-4 加増 500石 直賢 采地記載なし

岡村備後守家/旗本人名事典(①万石以下国字分名集、②幕士録、③旗本姓名高寄)、④旗本家百科事典(柳補)、⑤幕臣人名事典

①岡村丹後守直賢。300俵。丹波。平氏良支流。小納戸。石井筒の内に矢筈打遊。幕紋七灯籠、袴紋勝鬘、丸の内に雁金。牛込仏性寺。拝領屋敷湯島五丁目横町

②岡村備後守。500石。本郷傘谷 ③岡村丹後守、備後守。500石。本郷傘谷

④岡村桑次郎直賢。弥右衛門、丹後守。父桑次郎。500石。神田橋外。安永2 5小納戸、同-11家督、同-12布衣、寛政9-1小納戸頭取、文化7-11清水家老、14 7旗奉行、文政元-6卒

岡村虎之進。丹後守、備後守。父丹後守。500石。本郷傘谷。寛政9-7小納戸、10 6小姓、11 6小姓頭取介、文化6-□小姓頭取、12-9小十人頭、天保2-5先手鉄砲頭、7-11新番頭、9 4小普請組支配、12-5大目付鉄砲改、14-1道中奉行兼、14-12清水家老、弘化元-12小普請支配、嘉永3-12小普請?

⑤岡村丹後守。成61才。祖父丹後守、父備後守、実父秋山内記。500石。文政2-6小姓組、天保5-11西の丸小納戸、8-4本丸、嘉永4-12家督、安政元-11諸大夫、6-3頭取、文久2-3槍奉行

各村の所領変遷/①市原市史(上総国村高帳、旧高旧領取調帳)、②稿本五井町歴史年表

①31海保村。文政2年~明治維新。旗本岡村氏領、慶応4年岡村弥右衛門284石

②文政2年。海保村は小十人頭岡村備後守が知行した(田中古)

江戸屋敷/①東京市史稿、②諸向地面取調書、③復元情報地図、④変遷絵図集

- ①18-766正徳6-4=直純 当分田安御用屋敷長屋拝借。その後桜田御門屋敷拝領
21-438享保10-10= 西の丸下桑原権左衛門屋敷971坪拝領
22-766 17-3 西の丸下差上げ、田安御門外表四番町松平美濃守上地のうち550坪拝領
22-777 17-4 領
27-349明和3 12=直昌 表四番町550坪と牛込若宮八幡下吉田元卓屋敷300坪相対替え
28-433安永3-8 直賢 牛込御門内屋敷相対替え
30-346天明7 12= 湯島5丁目横町屋敷辻五郎三郎4方替え
32-462寛政10-9= 湯島5丁目水野安五郎預かり地33坪添地拝領
33-193享和2-9= 湯島5丁目横町屋敷裏門満寺預かり地のうち8坪拝借
33-850文化5-12= 湯島5丁目483坪と神田橋御門外松平内膳屋敷910坪相対替え
37-79文政12 11 直恒 神田橋御門内910坪のうち700坪大沢修理大夫へ。湯島5丁目内藤左京屋敷580坪4方替え

(2)居屋敷(隠岐守) 湯島5丁目横町580坪余。拝領屋敷-駒込富士前200坪。右は地守付けおく水野藤右衛門知行所屋敷-新田堀之内村3,180坪。ただし賃銀付き。道法日本橋まで2里余

(3)居屋敷-20J 11。岡村丹後守。文京区湯島2 18、19の一部、湯島見目ビル、日商岩井本郷マンションの一部

(4)4 (1)番町のうち。(享保14年松平大蔵少輔の一部)17年岡村丹後守、19年弥右衛門、宝暦6年丹後守(6年以降吉田元卓ほか) 千代田区九段北2-2の一部、神楽坂通り、都立九段高校の一部

94ページに続く

江戸屋敷/①東京市史稿、②変遷絵図集

- ①12-591元禄8 12=直秀 屋敷替え
18-428正徳4-9=乗秀 市ヶ谷加賀屋敷細井泉守屋敷520坪拝領
20-871享保8-10= 市ヶ谷加賀屋敷広道のうち169坪当分拝借
28-175明和9-11=秀興 四谷内藤宿400坪本多銀十郎へ。表2番町長田新五郎1,043坪のうち400坪5方替え

②12-(4)市ヶ谷のうち。(正徳3年細井和泉守)享保年中萩原源八郎(寛延元年川村権七)=新宿区市ヶ谷聚王寺町82、マンション市ヶ谷

菩提寺/①寛政重修諸家譜、復元情報地図、②文献、③現状

①谷中長明寺(代々)24A-13=日蓮宗、日照山、京都本願寺末。台東区谷中5-10

②江戸の旗本たち96(長明寺)直秀は正徳3年9月26日に没し、谷中の日蓮宗長明寺に葬られた。歳56。墓は萩原家のみ読めるが他は剝離している。直秀は合祀されているであろう。

③長明寺の関係墓碑。新旧角柱墓碑各1基 別紙マップ調査図参照
萩原家.....表面剝離..... 萩原近江守源直方之墓。慶応3年4月10日卒。行年60才
萩原近江守源直方之妻。大河内橋助信福娘。弘化2年9月13日卒。行年30才 明治12年12月(改葬?)
ほか新しい角柱墓碑1基 故陸軍歩兵伍長萩原新墓(寺住職の説明では直秀のものは現存しない)
参考)本家 作之助-近江守直方、家茂公小納戸肝煎、先手鉄砲頭-錦次郎、明治2年家督、金谷原開聖御用6人扶持手当60両

岡部丹波守家つづき

11火消役、文政2-11新番頭、8-3小姓組番頭、11-9寄合?
⑤岡部中務。亥21才。祖父丹波守、父勘解由。安政2-3父隠居家督寄合。万延元-5駿府加番、文久元-10幕府、3-8火事場見回

各村の所領変遷/市原市史(上総国村高帳、旧高旧領取調帳)
116中村。寛永19年~明治維新。旗本岡部氏領、寛政5年岡部主税、慶応4年岡部中務57石

117佐瀬村 " " " " 50石

江戸屋敷/①東京市史稿、②諸向地面取調書、③復元情報地図、④変遷絵図集

- ①8-1寛文2-2=与賢 下屋敷拝領
12-53元禄7閏5=勝政 屋敷拝領
37-362天保2-2=盛勝 西久保差上げ、渋谷池田甲斐守屋敷300坪拝領

②居屋敷(熊之丞)=麻布広尾2,360坪。下屋敷=渋谷3,000坪

③居屋敷=10J-02。岡部勘解由、4,500石、寄合。2,360坪。港区南麻布13と12の一部、有栖川パークマンション、フオーハウス
下屋敷=10G-04。岡部勘解由、4,500石、寄合。3,000坪。渋谷区広尾1-9の一部、区立臨川小学校の一部

④8-(7)虎御門のうち、西久保のうち。延宝年中岡部隠岐守(宝暦9年細井金右衛門)=港区愛宕1-1、2、4、第9森ビル、虎の門八東ビル、コールドー

8-(9)幸橋御門外、愛宕下芝口のうち。延宝年中岡部丹波守(元禄3年松平督守の一部)=港区新橋2-17の一部、JR新橋駅中央あたり、京浜百貨店

9-(3)芝切通し、西久保のうち。延宝年中岡部隠岐守(元禄10年~11年牧野駿河守)=港区麻布台1-11の一部、麻布第一生命ビル、麻布ビル

⑤正保元年岡部丹波守=港区六本木1-5あたり、農林省生活改善技術研究所あたり。明暦2年岡部丹波守与力組屋敷=港区六本木3-6あたり、不動院あたり。寛文10年、延宝8年岡部丹波守=愛宕1(前出)。寛文12年、延宝8年岡部丹波守=広尾(前出)。延宝7年岡部丹波守=新橋2(前出)。延宝7年岡部丹波守=麻布台1(前出)。延宝7年岡部丹波守組屋敷=渋谷区六本木3-5、6の一部、鹿コーポラス、部落開放同盟あたり

菩提寺/①寛政重修諸家譜、復元情報地図、②文献、③現況

①赤坂種徳寺(代々)16D-04=臨濟宗、本光山、京都大徳寺末。港区赤坂7-6。現在は単立

②江戸大名旗本の墓44(種徳寺)天文10年北条氏勝の創建で小田原城内にあったが天正18年江戸に移転、寛永19年当地に移った。北条氏康の娘種徳寺殿が中興開基でかつて5,000坪の境内を有する御寺であった。分部大蔵、堀須坂家菩提寺

③種徳寺の岡部家墓碑 別紙調査マップ図参照

岡村備後守家つづき

14-(5)本郷、湯島のうち。(宝暦7~8年内藤左膳)天保14年岡村丹後守=湯島2(前出)
菩提寺/寛政重修諸家譜、復元情報地図

牛込仏性寺(代々)7K-14=日蓮宗、正栄山、下総中山法華経寺松。大法寺に合併

下知書

一、当卯十月二日夜、当所大地震の処、御知行所御住居向、御土蔵、御長屋向等殊の外大破相成り候につき、早々御取り繕い成られべく候と、去る寅年中より別して御物多にて当時御手薄に相成り候て御修復等御入用格外の儀につき、御他借も当節柄難しく遊ばされ成るたけは村方の者どもは御厭い遊ばされ候えども御救いなく、このたび高百石に付金三両の割合をもつて夫金御用、仰せ付けられ候あいだこの段村方小前一同へ申し渡されべく候、もつとも上納の儀当十二月下旬迄相違なく相納めべく、右の段高根本郷へも申し渡し候あいだその意を得べく候、これより下知状くだんのごとし。

御地頭所

安政二卯年十月

水崎藤三郎(印)

海保村

村役人中

覚

一、金五十両なり

(地頭割り印)

右知行所御林二か所、今度松木残らず御伐払い御請負其方へ仰せ付けられ、右代金の内前書の通り上納金請取申し候。以上

(地頭割り印)

御地頭所

嘉永五子年十月

松岡 肇(印)

水崎藤三郎(印)

名主

丈右衛門

(裏書)
表書相違なきものなり

(大丸印) 地頭

下知書

一、当卯十月二日夜、当所大地震の処、御知行所御住居向、御土蔵、御長屋向等殊の外大破相成り候につき、早々御取り繕い成られべく候と、去る寅年中より別して御物多にて当時御手薄に相成り候て御修復等御入用格外の儀につき、御他借も当節柄難しく遊ばされ成るたけは村方の者どもは御厭い遊ばされ候えども御救いなく、このたび高百石に付金三両の割合をもつて夫金御用、仰せ付けられ候あいだこの段村方小前一同へ申し渡されべく候、もつとも上納の儀当十二月下旬迄相違なく相納めべく、右の段高根本郷へも申し渡し候あいだその意を得べく候、これより下知状くだんのごとし。

御地頭所

安政二卯年十月

水崎藤三郎(印)

海保村

村役人中

決裁印

一、金五十両なり

(地頭割り印)

右知行所御林二か所、今度松木残らず御伐払い御請負其方へ仰せ付けられ、右代金の内前書の通り上納金請取申し候。以上

(地頭割り印)

御地頭所

嘉永五子年十月

松岡 肇(印)

水崎藤三郎(印)

名主

丈右衛門

得虎子／神奈川県史資料編
中心に、白子町北高根付近

28年の長生郡の自治体名。
旧村時の6大字を継承、
称。昭和22年高根中学校開
組織し、天水と溜池に依存
た。世帯数・人口は、昭和
9・3,291。昭和28年長生村

置する。
明治22年の村名。下総国葛
では幕府・旗本小栗氏の相
地では325石、「元禄郷帳」
高旧領」ともに341石余。延
・本畑20町9反余・屋敷1
。正徳5年古和釜村近く、
持添の原新田)を新開。戸
26、寛政12年71・368、慶応
・644。寺院は曹洞宗高根寺
親行院。神社は秋葉権現社。
書)に秋葉三尺坊と見え、
年には南金杉村と当村が野
境紛争となり、当村が440
解決(船橋市史前篇)。明治
東葛飾郡に編入。明治22年

昭和14年の大字名。はじめ
船橋市の大字。明治24年の戸
明治33年八栄第一尋常小学校
校舎が焼失し、その再建は
戸数・人口は大正9年13
。昭和15年1月1日高根町

～現在の船橋市の町名。第
導隊照空訓練所があり、戦
て開拓された。昭和35～38
年新京成電鉄高根公団駅設
交、同37年高根台第二小学
同48年高根中学校が開校。
30・879、同45年1,968・7,0
を編入。一部が昭和38年高

町・古和釜町・大穴町・習志野台1丁目の各一部。昭
和48年の世帯数7,650・人口2万3,256。

たかねほんごう 高根本郷<長生村>

九十九里浜平野南部に位置する。

〔近世〕高根本郷村 江戸期～明治22年の村名。上総
国長柄郡のうち。「上総国村高帳」では館山藩・幕府
の相給。「旧高旧領」では館山藩、幕府、旗本松平
氏、岡村氏の相給。村高は、文禄3年「石高覚帳」57
9石、「元禄郷帳」1,312石余、「天保郷帳」「旧高旧領」
とも1,606石余。家数は、「上総国村高帳」では231、
「上総国石高帳」(伊藤家文書／県史料上総)では217。
宝暦11年の村明細帳によれば、反別174町、家数は農
民204(うち水呑9)のほかは本道医師・馬医・紺
屋・木挽各1がいるのみで純農村であった。神社は住
吉神社。寺院は日蓮宗道教寺・関根寺・法輪寺・万福
寺・本養寺・宮前寺があり、法輪寺には宗宝指定の鎌
倉期の祖師像がある。明治2年一ツ松村の分郷村22か
村のうち原村を合併。明治6年千葉県に所属。天保13
年当村に生まれた諸岡文節は、のちに私塾朝陽塾を開
き、明治6年初代高根小学校長をつとめ、同9年には
時習学舎を開設して教育にあたった。同18年の反別44
2町9反余(上総国町村誌)。明治22年高根本郷村の大字
となる。

〔近代〕高根本郷村 明治22年～昭和16年の自治体名。
はじめ長柄郡、明治30年からは長生郡に所属。高根本
郷・曾根・中之郷・小泉・宮成の5か村と六ツ野村飛
地・北高根村飛地・一ツ松村飛地・岩沼村飛地が合併
して成立。旧村名を継承した5大字と岩沼飛地で6大
字を編成。役場を高根本郷に設置。明治24年の戸数46
4・人口3,115、厩181。同26年高根高等小学校設置、
同28年同校を廃し高根尋常小学校に高等科を併置。大
正2年高根信用購買組合設立。同4年巡査駐在所設
置。同15年電灯点火。明治末年の主農産物は米・大
麦・甘藷・ダイコン・ナス。大正末年には大豆、昭和
10年代にはスイカも多く産した。昭和10年の馬43・役
牛70・豚90・鶏3,169。蒲ぞうり・かます・むしろ製
造等の副業が盛ん。7割の農家が養蚕を行い、昭和10
年には桑園107反、繭1万6,200貫を産した。同12年南
部稚蚕場設立。同13年電話開通。昭和16年高根村と改
称。

〔近代〕高根本郷 明治22年～昭和16年の高根本郷村
の大字名。高根本郷村役場所在地。明治24年の戸数23
1・人口1,535、厩90。昭和16年高根村本郷となる。